

報道資料

平成 26 年 9 月 1 日



デング熱の国内感染症例について

平成 26 年 9 月 1 日、市内の医療機関から海外渡航歴がないデング熱患者の届出が柏市保健所に提出されました。

患者の概要及び柏市の対応等について、以下の通りお知らせします。

1. 患者について

(1)概要

- ・患者は柏市在住の 50 歳代男性。都内勤務。
- ・海外渡航歴なし。
- ・8 月 27 日夕方から発熱等症状出現し、8 月 28 日に夜間救急病院受診。解熱薬等処方されるも改善せず、8 月 29 日に市内医療機関を受診、同日より入院。
- ・症状は発熱のほか、関節痛、発疹、血小板減少等。現在も入院加療中。
- ・患者の血液検体を国立感染症研究所に搬入し、デング熱について検査を実施したところ、PCR検査の結果が陽性と判明した。

(2)推定感染地域

- ・関係者調査の結果、本件患者が発症前に代々木公園近隣において蚊に刺されたことが確認されている。海外渡航歴がないこと、及び同公園での感染が疑われる事例が発生していることから、当該地域での感染の可能性が疑われる。

2. 柏市の対応について

(1)関係者調査

- ・現在、本件患者と一緒に活動していた者等について調査を継続中。

(2)相談窓口の設置

- ・柏市保健所に、デング熱専用相談窓口を設置。

窓口電話番号：04-7167-6777

対応時間：平日午前 9 時から午後 5 時まで

【本件に関するお問い合わせ先】

柏市保健所保健予防課感染症疾病対策担当 広木、小倉

電話 04-7167-1254 FAX 04-7167-1732

【参考】デング熱について

(1) 概 要

- ・ 蚊が媒介するウイルスによる疾患で、アジア、中南米、アフリカ等の世界の広範な地域で流行している。
- ・ ヒトが感染しても、発症する頻度は10～50%で、発熱、頭痛、筋肉痛や皮膚の発疹等が症状として現れる。
- ・ 予後は比較的良好な感染症だが、まれに重症化することがある。
- ・ ヒト（患者）— 蚊 —ヒト という経路で感染するため、ヒトからヒトに直接感染することはない。

(2) 症 状

- ・ 突然の発熱、激しい頭痛、関節痛、筋肉痛、発疹等が出現する。
- ・ 潜伏期間(蚊に刺されてから、症状が出るまでの期間)は2～15日と言われており、多くは3日から7日で発症。
- ・ まれに重症化し、出血やショック症状を発症するデング出血熱や、デング症候群に移行することがある。

(3) 治療法

- ・ 特異的な治療法はなく、対症療法が主体。
- ・ 現在のところ、有効な抗ウイルス薬はない。

(4) 予防法

- ・ 国内では、ヒトスジシマカがデング熱を媒介する可能性がある。
- ・ 蚊との接触を避け、刺されないようにすることが重要。
- ・ 実用化されたワクチンは今のところない。

詳しくは、柏市保健所のホームページをご覧ください。

<http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/061600/p020027.html>